宇久中だより2017

佐世保市立宇久中学校　学校通信
（平成２９年９月２号）
文責　校長　田雑　健
平成 29 年 9 月 8 日(金)発行

学校教育目標　：　ふるさとを愛し、主体的に学習し、自らの判断で正しく行動できる生徒
めざす生徒像　：　素直で心豊かな生徒　・　自ら考え、主体的に学ぶ生徒　・　強くたくましい生徒
宇久中生徒の5励行　：　心のこもったあいさつをする　授業に集中する　生徒会活動や部活動に励む　大きな声で校歌を歌う　清掃活動に力を入れる

いよいよ本番

夏休み中から練習に励んだ体育大会も１０日（日）に本番を迎えます。高校との合同開催ということで高校に出向き、高校生の先輩方とともに練習に汗をながした成果をしっかりと発揮し、平成２９年度の大会を悔いのないものにしてほしいと思っています。

こういった行事の際にはなかなか計画通りに事が進まず、つい仲間内でもめてしまったり、自分の力のなさを感じて落ち込んでしまったりということもあります。しかし、そうした「苦しい体験」、あえて言うなら「失敗体験」も人生の中では価値あるものだと思います。

失敗の先に、苦労の先にこそ成功があり、満足があります。本番の日に「成功」が訪れるように、最後まで気を抜かずにがんばりましょう。

心と体に元気がないと「よし、やるぞ！」というやる気もおきません。コンディション管理も大切に。

> 失敗なんかしちゃいない。
> うまくいかない方法を
> ７００通り見つけただけだ。エジソン

自分の身は自分で

「防災の日」について９月１日にお話をしました。その中で災害に対する「自助」「共助」「公助」について触れました。まずは「自助」ということで締めくくりましたが、災害のみならず犯罪に巻き込まれそうになったときも、まずは自分で身を守る手立てを知っておくことが大切です。

「**いか**ない」「**の**らない」「**お**おきな声を出す」「**す**ぐに逃げる」「**し**らせる」という「いかのおすし」を忘れずに！

万全の体調で勝負！

暑さもだいぶ和らいできましたが、この時期は、夏の疲れが出る頃でもあります。体育大会まであと２日、全員が万全な体調で活躍できるよう、以下のことに気をつけてほしいと思います。

＜前日まで＞

①早寝・早起きで体力アップ！

十分な睡眠は、疲労回復・体力の増強に欠かせません。夜更かしをせず、早めに就寝しましょう。

②体のケアをしっかりと。

痛いところには湿布を貼る、ストレッチやマッサージをする等、自分でできるケアをしておきましょう。

＜当日＞

①熱中症予防のため、こまめに水分補給を！

②油断は大きなケガや事故のもと。楽しみながらも、集中力を忘れずに。

前期後半スタート

先週９月１日（金）は夏休み明け、前期後半の開始ということで、全校集会を開き下記の内容を骨子として、話をしました。

○夏休み前に、「この休みを活用して、次の秋に飛躍する力を蓄えてほしい」と話をしました。
○「夏を制する者は秋に伸び、秋に伸びる者は冬に耐え、冬に耐える者が春に笑う」とも伝えました。手ごたえはあったでしょうか。
○休みも終わり、前期前半のスタートです。中高合同体育大会が目前に迫り、１０月には市中体駅伝競技が行われます。夏に鍛えた体力・精神力をフルに発揮してほしいと思います。
○９月中旬には公立高校入試要項の説明が行われ、入試準備が本格化してくる時期です。そして、ここから勉強にわき目も触れず取り組みだすという３年生が大勢います。「がむしゃらにがんばって力をつける」同学年の人がいるということを念頭に、３年生は今後の取組を考えてほしい。１・２年生は頑張る３年生を手本に将来の自分を考えてほしい。
○今日９月１日は「防災の日」です。「自助」「共助」「公助」とあるが、まずは自分の身は自分で守る「自助」から。自然の力を決して侮ってはいけない、常に備えることが大切。

夏休み中も部活動、駅伝練習、学習会、そして後半は体育大会の練習も加わり、結構厳しいスケジュールであったように思います。しかし、それぞれの活動の中で皆一生懸命にやるべきことに打ち込んでいました。大変すばらしいことだと思います。ただ、追い込みがたたったのか、１日(金)は左のような表情をした生徒がやや多かったように見えたのは気のせいでしょうか。

９月１日は「防災の日」

左の記事でもふれていますが、９月１日は防災の日。この日はいうまでもなく 1923（大正 12）年に東京、横浜を中心とする地域を壊滅状態とした関東大震災の発生した日です。加えて台風シーズンを迎える時期でもあり、それらを踏まえて昭和 35 年からこの日を「防災の日」としています。

昭和 35 年９月１日発行の官報資料には「防災の日」の創設について、次のように記されています。

「政府、地方公共団体など関係諸機関はもとより、広く国民の一人一人が台風、高潮、津波、地震などの災害について、認識を深め、これに対処する心がまえを準備しようというのが、『防災の日』創設のねらいである。」

自然災害を 100%予測したり、100%防げるはずはないのですが、先の東日本大震災の際も、以前から準備や訓練をして、それを着実に実行できた学校、団体、個人は多くのいのちを守ることができています。

９月１日「防災の日」をひとつの区切りとして、中学校でも防災計画や避難経路を再度見直し、生徒の連絡先に変更はないかといったことを確認するなど、万が一に備え、取り組んでいるところです。

さて、天災だけでなく、広くトラブル全般について、宇宙観測で大きな話題となった探査衛星「はやぶさ」のプロジェクトマネージャーを務めた川口淳一郎氏は、こう語っています。

「私は、心配していたことが起きてしまうのは三流だと思っています。心配していたことは起きないのだけれど、予想もしていなかったことが起きてしまうのは二流。では、一流はどうかと言えば、これは何も起きないのです。」▼（「仕事学のすすめ　2011 年 6 月号」より）